

TUAD IS HERE

日常の中の芸工大。

山形 R 不動産リミテッド
「ミサワクラス」

WEB

山形市七日町、中心商店街にある元旅館で芸工大の現役学生や卒業生たち11人が暮らしている。「ミサワクラス」と名付けられたその建物は、街中の空き物件を再生させて、地域を活性化させようという山形 R 不動産リミテッド物件第1弾。リノベーション（再生）計画は学生が卒業制作として行い、大掛かりな改修部分は業者に依頼しつつも、ペンキ塗りなどは学生たち自身で取り組んだ。学部学科の枠を超えた在学生や卒業生が生活の場、制作の場として空間をシェアしており、さらに今後は4階部分をチャラリーとして公開する予定。アートを志す若者たちの暮しに加わることと街が活気づき、商店街の風貌が少しずつ変化し始めている。



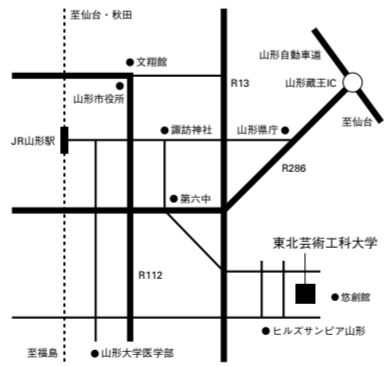
松山 隼 Matsuayama Jun
(写真右側)

2008年度大学院修士課程芸術文化専攻洋画専攻修了。4月から「ミサワクラス」に暮らし、アーティスト活動に取り組んでいる。今後は何らかのカタチで商店街活動にも参加していきたいと意欲的。

黒田 奏太 Kuroda Ryota
(写真左側)

大学院修士課程デザイン工学専攻環境デザイン領域1年。「ミサワクラス」プロジェクトで中心的女医を真とし、自身も中心で生活。次なるリノベーション計画も進行中で、周囲からの期待も高まっている。

ACCESS



東北芸術工科大学広報誌 g*g

2009年7月15日発行
発行：学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形市上樞田3-4-5
東北芸術工科大学広報室
TEL: 023-627-2246 FAX: 023-627-2185
WEB: www.tuad.ac.jp
E-mail: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design: Creative Room J1
Printing: Tamiya Printing co., Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2009

東北芸術工科大学

◎芸術学部
美術史・文化財保存修復学科
歴史遺産学科
美術科【総合美術／日本画／洋画／版画／彫刻／工芸（漆芸・陶芸・金工）／テキスタイル】

◎デザイン工学部
企画構想学科
プロダクトデザイン学科
建築・環境デザイン学科
グラフィックデザイン学科
映像学科

◎大学院芸術工学研究科
博士後期課程 芸術工学専攻
修士課程【芸術文化専攻／デザイン工学専攻／デザイン工学専攻 仙台スクール】

◎研究機関
総合研究センター／東北文化研究センター／文化財保存修復研究センター／こども芸術教育研究センター／デザイン哲学研究所／東アジア芸術文化研究所／社会芸術総合研究所

表紙のART

WEB



“痕跡”をテーマに制作された和紙の服

紙で制作されたさまざまなデザインの服は、日本画専攻の大学院生、柴野緑さんの作品。学部の卒業制作では600個以上の木の枠による作品を創ったように、柴野さんはこのところずっと、日本画の様式にとらわれない表現に取り組んでいます。試行錯誤の中で、今、手応えを感じているのが、紙で服をつくること。服は着ている人に馴染み、その人の生活の痕跡となるもの。ある人物が着ている洋服を型どりながら、紙で服を制作することでその存在の在処を知りたいと、ディテールまで丁寧に仕上げられています。

「g*g」とは？

芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」はスバリ芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持った人々のことを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！ このデザインがっいいい！ 景観がきれい！ こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民です。そんな芸術市民のみなさんと芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。





（庄内映画村）の石倉オープンセットに到着し、ここでの見学ポイントや企画課題について説明する小山教授と、真剣に話に聞き入る企画構想学科の学生たち。



（悠創の丘）に向かう途中、何程も立ち止まっては自然界に見られる不思議な必然話を展開する岡田教授。草の葉一枚、木の葉一枚、枯れたヒマワリまでもが教材です。

HEADLINE

芸工大の2つの「ソウゾウリョク」。

友達や地域の人や、自然、社会が喜ぶことを真剣に考えるココロ。相手が辛そうな時、その傷みや苦しみを理解する「想像力」、解決する方法を探る「創造力」。アートやデザインを学ぶということは、自分らしさや優しさ、イメージする力を引き出すということ。まずは、自分の生活や家族や地域社会といった身近なところから、一つひとつにその力を発揮していく。すると世界は少しずつ良い方向に変わっていくはず。芸工大は、いろんな分野で社会に貢献できる、そんな想像力と創造力を持ったクリエイティブな人材をたくさん輩出していきたいと思っています。その2つのソウゾウリョクを持つ人材育成のために、芸工大の学生が日々学んでいる演習内容を、今年度新設となった企画構想学科と総合美術コースからご紹介します。

「企画構想学科」では、〈庄内映画村〉視察を中心とした1泊2日の研修旅行を通じて、企画の現場を生で体験。

企画構想学科のテーマは、人や社会を幸せにするアイデアを企画し、実現するという、モノやカタチではないデザイン力を学ぶこと。1年生の目標は、さまざまな価値や魅力を日頃から発見できる「アイデア体質」になることです。小山薫堂教授をはじめとする、各分野のプロフェッショナルを教授陣に、実践的で戦略的な授業を展開しています。新設から約2カ月が経った6月中旬、学生約50名と学科教授陣は、まだ一般公開前の〈庄内映画村〉を訪ねました。「ジャンゴ」「座頭市ー THE LASTー」などの話題作が撮影された、映画のオープンセットの見学です。「座頭市ー THE LASTー」が撮影された漁村のセットで写真撮影をしたり、檣の上で広大なセットの全景を眺めたり、学生たちは観光気分。しかし、これは研修

旅行。少し時間が経ったところで、小山教授から学生へ課題が伝えられました。それは、庄内映画村のオープンセットが9月に一般公開し、記者発表を行うという実際の予定に合わせて、多くの報道陣を集めて、全国ニュースとして扱ってもらうための、プロモーション企画を構想するというもの。「アイデア体質」づくりに励む学生にとっては、映画村というテーマパークは、大きな教材なのです。山林に囲まれた敷地をバスで移動し、小山教授が脚本を手がけた12月公開予定の映画『スノープリンス』のオープンセットへ。映画村の魅力を引き出すために、セットを見る学生の目も真剣です。また、主人公の少年の家や炭焼き小屋など、映画のセットを脚本家「小山薫堂」本人に案内してもらおうという貴重な時間も。

そして、映画村見学の終盤に、この日の隠れたメインイベントともいえる事件が発生!? セットのサーカス小屋に入った小山教授へ、突然襲いかかる着ぐるみのクマ。驚く小山教授に向かって学生が「ハッピーバースデー! 小山先生!!」。実は今日は小山教授の誕生日。学生たちが仕掛けたサプライズだったので、人々を喜ばせること、幸せにすることを主眼に企画を考えている教授を逆に喜ばせようと実行された企画。学科の精神が学生へ伝わりはじめてるのが見えた研修旅行でした。



知性と感性の両面を重視した、全国でも例を見ない「総合美術コース」。

そのフィールドワークをのぞいてみると……。

画家や彫刻家など、専門性を高めてスペシャリストを養成するのが芸術大学と思われがちです。しかし、美術科の「総合美術コース」は、「芸術とは何だろう」「表現するとは何だろう」という原点から、芸術の可能性を追求し、広範囲な知識や経験をもつジェネラリストの育成を目指しています。幅広い芸術の知識や経験を基礎にすれば、より高いピラミッドを積み上げられるはず。その頂にあるのは、今までのジャンルにとらわれない新しい独創的な芸術表現や、芸術を通して人々の心や暮らしを豊かにする社会活動など。そのため「総合美術コース」のカリキュラムには、地域と関わるフィールドワークやワークショップなど多角的な授業が中心です。この日も岡田真宏教授と花澤洋太准教授によるフィールドワーク。教室で今

日の授業の狙いや、全体の課題についての説明を受けた後、大学裏手の〈悠創の丘〉へと向かいました。自然界の、時とともに変化しながら形を創り出す「法則性」に目を向けながら、各自が美しいと感じ、やすらぎを感じ、目と心を配る授業です。岡田教授を囲みながら悠創の丘へと向かう20数名の学生たち。その途中に咲く草花や頭上の枝葉にも反応し、そこに見られるフラクタル（反復する幾何学的な造形）に関する解説をする岡田教授。遠くに見える山々の微妙な色の違いから光の波長の話に及び、宇宙の話にまで広がる振幅の大きさに、学生たちも熱心に耳を傾けていました。その後、各自がそれぞれの方法で自然の法則に触れ、何かを感じてスケッチを始める者、写真を撮る者、さらに何かを求め

て丘の上へと分け入る者、自身の感性を研ぎ澄ませていきます。「制作の前段に重心を置いた独創的な授業展開に、はじめは驚いていた学生たちも、入学後わずか1カ半月で目覚ましいほどに意識に変化が見られた」と岡田教授。早くも3年後への期待が膨らんでいます。将来は、前衛的な芸術家かもしれないし、幼児教育家や音楽家という社会づくりに貢献するという道も。自ら職業を創り出す、そんな学生を育てるコースなのです。



美術科 総合美術コース
このコースでは、芸術の真の力を社会のさまざまな場面で活用していくことを目標としています。芸術のジャンルにとらわれず、新しい表現を追求する道と、芸術を通して人々の暮らしや心を豊かにする社会活動で活躍する道が開かれます。

脳科学者と芸術家が「ソウゾウリョク」の必要性を語り合った。



茂木健一郎 × 宮島達男 特別トークライブ「アートが世界にできること。」 [WEB](#)

4月29日にせんだいメディアテークで行われたトークライブは、会場に入りきらず通路に立ち見が出るほどの大盛況。「アートが世界にできること」というテーマのもと、脳科学者の茂木健一郎氏と本学宮島副学長が、「ソウゾウリョク」の視点での意見交換を約1時間半にわたって繰り広げました。宮島副学長が「文学（芸術）はアフリカの飢えた子供を救えるか」というサルトルの言葉に衝撃を受けた話題からスタートし、先日ウガンダへ行き、芸工大の学生とエイズ孤児とが描いた絵によるワークショップを行ったことを報告。「はじめは暗い表情だったウガンダの子どもたちが、絵を描くうちに明るくなっていく……。そんな光景を目の当たりにした」。茂木氏は、「アートは我々の生活の必要からは外れた行為と捉えがちだが、実は我々が生きることに関わり結びついている。地位や名誉は関係なく、人を幸せにすることができるもの」とアートの力に触れると、宮島副学長も「アートには2つの「ソウゾウリョク」を養成する力がある。その2つとは、他者の苦しみや悲しみを想像する力と、困難な問題を解決していく創造する力。そして、アートを学ぶ大学で育まれるこの2つの力を活かす場所は数限りなくあって、アートの世界だけに留まるものではない」と力説。価値観が資本主義に傾向した時代から、限りのある地球環境の中で私たちがいかに暮らすか、という変化の時代に武器となるのはこの「ソウゾウリョク」というキーワード。小さなことでも世界中の人が、相手のことを想像し、相手の幸せを創造していくことで、少しずつでも世界を変えていけるということ。「あらゆる分野で『ソウゾウリョク』を發揮できる人材を育てていきたいと考えています」という宮島副学長の熱い思いに触れ、茂木氏からも「自然豊かな山形にある芸工大で何か凄いいことが起こっている」と、聴衆の「ソウゾウリョク」に強く訴えかけていました。

茂木健一郎 Mogi Kenichiro
1962年東京都生まれ。東京大学理学系大学院物理学専攻修士課程修了。理学博士。脳と心の関係を研究するほか、NHK「プロフェッショナル」仕事の流儀」キャスターなど多方面で活躍。

宮島達男 Miyajima Tatsuo
1957年東京都生まれ。東京藝術大学修士課程修了。東北芸術工科大学副学長・デザイン工学部長。発光ダイオードのデジタルカウンターを使用した作品で国際的評価も高い現代美術家。

HEADLINE

TUAD NEWS 30

目で見える芸工大「できごと」セレクション



01

「サステナブルデザインアイデアコンペ2008」今後注目の分野の受賞者決定

デザイン哲学研究所主催で、東北6県の学生を対象に開催したサステナブルデザインアイデアコンペを開催。学内外の29チームの応募の中から、1次審査を通過した13チームによる最終プレゼンを5月9日に実施。最優秀賞はプロダクトデザイン学科の吉田奈々さんが選出されました。今後は全国展開も行う予定。最優秀賞：吉田奈々「KAMINOWA」プロダクトデザイン学科3年、優秀賞：須川太一「バスルハウス」東北大学工学部建築社会環境工学科水環境デザインコース3年、優秀賞：小池匠・高橋勇太／千葉蘭「CGB」プロダクトデザイン学科2年、優秀賞：倉兼信「Kosugi」プロダクトデザイン学科4年



03

栗嶋観音堂境内天井画の修復作業完了文化財を大切に、心込めて修復に貢献

文化財保存修復研究センターの半田正博教授（東洋絵画修復家）が、酒田市の日和山公園入り口にある即身仏で有名な海向寺の栗嶋観音堂境内天井画（格天井）を修復し、4月16日に天井画の設置を行いました。また、天童市にある法体寺の掛軸3幅（「雨鳥図」1幅、天童市指定有形文化財、「羅漢図」2幅）の修復も手がけ4月17日に納品しました。

06

美術を通しての幅広い活躍が評価され国際ソロプチミスト山形の賞を受賞

大学院版画領域の立花泰香さんが、版画制作を通じた美術への研究と、ワークショップ、ボランティアなどの幅広い活動の成果が認められ、国際ソロプチミスト山形「女子学生奨励賞」に輝きました。4月22日に山形市市民会館で授賞式が行われました。



07

教授と学生が写真展で対峙を見せた「東北発見 めくるめく写真の宇宙」

内藤正敏大学院教授と学生たちが、さまざまな東北の風景を描影した写真群から新たな東北を再発見し「写真とは何か」を模索する試みとして、4月5日～25日に写真展を開催。本館7階ギャラリーに内藤教授による「出羽三山」シリーズの大型写真群をマングラのように展示し、それに学生たちの写真を対決させる形で作品を展示しました。



08

テキスタイルで成果を表現した「human8+@persona.jp 仮面」展

美術科テキスタイルコース新3年生が「human8+@persona.jp 仮面」展を本学スタジオ144で5月9日～15日に開催。自分に秘められた可能性を、テキスタイルを中心としたさまざまな手法で制作・展示しました。参加学生：池下陽子／梅津佐和子／今野真莉絵／齋藤香奈／須藤ありさ／高橋明戸／竹越友美／田中可也子 企画：辻村美術科テキスタイルコース教授「山崎和樹同コース准教授／柳田哲雄同コース副手協力：加藤みな美／坂内まゆ子／松田かや



09



09

子どもたちをはじめ1,000人が大興奮！伝統芸能「THE 猿まわし」がやって来た

日本の伝統芸能の中にあつて能、狂言、歌舞伎などと並んで最も古い芸能のひとつとされている伝統的動物芸「猿まわし」公演を6月3日に正面広場で開催しました。山口県光市無形民俗文化財「周防猿まわしの会」のチョロ松・五郎コンビ、ビッグ・バナナコンビが、約600名を含む1,000人以上の人を楽しませました。

10

日本画領域修士生の喜ばしい活躍レスポワール新人選抜展で個展を開催

銀座スルガ画廊が企画する第43回レスポワール展2009新人選抜展で、本学、芸術工学研究科修士課程芸術文化専攻日本画領域修士の須田千恵さんが選ばれ、3月23日～28日に同画廊で個展を開催しました。

11



11

「酢川温泉神社」の軒下装飾を復元6月の例大祭で晴れてお披露目

蔵王温泉の公共浴場側にある「酢川神社（酢川温泉神社）」の屋根の軒下の装飾「簾股（かえるまた）」は過去に盗まれ、本来十二支分の12体があったものが現在は2体を残すのみとなっていました。その簾股の復元依頼を文化財保存修復研究センターが請け、美術史・文化財保存修復学科の学生たちが、藤原徹教授の指導を受けながら半年以上をかけて復元。6月26日の酢川温泉神社例大祭に併せて地域のみみなさんにお披露目しました。

02

大学生が規格外野菜に着目、新鮮・格安販売のリヤカー八百屋始動

作品展覧会や、地域の研究活動などを行う在学4年生の有志によるコンテンツボラリアート集団「じゃぱんデザイン事務所」が、「リヤカー八百屋」を企画し、6月から毎週木曜日に野菜の販売を始めました。朝日町や近隣の農家の人との交流の中で、品質は問題ないものの、大きさまや量が規格外のために捨てられてしまう野菜を、低価格で地域の人に食べてもらいたいという気持ちからスタート。店舗となるリヤカーも学生たちが廃物を再利用するなどして制作しました。こども芸術大学前の空き地にて、毎週木曜日、9:00～10:00と17:00～19:00にオープンしています。

12



12

3回連続入賞！ファイナリストも……第5回公共広告CM学生賞で奨励賞！

公共広告機構「AC」が毎年主催している公共広告CM学生賞で、映像計画コース3年生チームが制作した現代社会の様々な場面で出現するクレマー・モンスターを題材にした、CM作品「気がついて」（30秒）が奨励賞を受賞しました。映像計画コースは第3回から参加し今回まで連続入賞。第5回ではファイナリストに2年生、3年生の作品5本が競っています。審査発表・授賞式：3月26日 電通ホール（東京・汐留） 「気がついて」制作チーム：阿部勇／都築舞／佐藤圭／梶原雅宏／本間文崇 WEB: http://www.ad-c.or.jp/



13

新鋭登竜門「2009京展」で京展賞受賞歴史ある公募展彫刻部門で最高賞！

新進作家の登竜門「2009京展」で、大学院彫刻領域1年の黒宮亮介さんが、京展賞（彫刻部門）を受賞。5月26日～6月11日に京都市美術館で展覧会が開催されました。「京展」は1935年から続く、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の6部門を持つ公募展。応募総数800点以上の中から457点が入選。京展賞はそれぞれの部門で1名が選出されました。

14

水上能楽堂「伝統館」にて幻想的な「新能」が開催され、観衆を魅了

5月18日に水上能楽堂「伝統館」にて毎年恒例となっている新能を開催。本学から眺める出羽三山の風景とかがり火の風情を背景に、多くの方々に能をご堪能いただきました。演目：能「安達原 白頭」（シテ観世鏡之丞ほか）、狂言「居統」（シテ山本東次郎ほか）

15

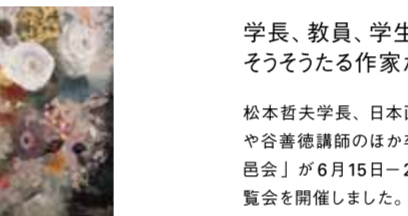


15

これは便利、これは見やすい！「山形市公共交通マップ2009」を制作

山形での公共交通機関の利用促進を目的にした「山形市公共交通マップ2009」を、吉田朗 建築・環境デザイン学科教授と、大学院修士で非常勤講師の古川哲哉さんが山形市と共同で制作しました。本学・山形市・公共交通事業者による共同検討会議にて、吉田教授が一目で乗換ポイントのわかるマップを提案。古川さんが、見やすさを追求したマップとしてデザインしました。発行：山形市（発行日：2009年3月）事務局・問合せ：山形市企画調整課 WEB: http://www.city.yamagata.yamagata.jp

16

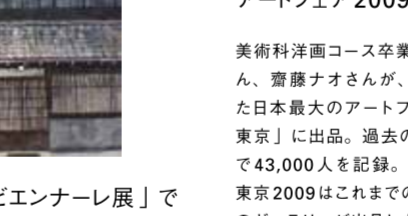


16

学生・教員の活躍顕著に。第64回 春の展覧でも入選者多数

「第64回 春の展覧」に以下の学生、教員などが入選。東北では仙台展として、5月13日～22日に三越仙台店にて巡回展が開かれました。奨励賞：香場三雄「ヤルツツノボの銘」 入選：谷善徳（講師）／山口裕子（4年・写真）／森山育恵（3年 初入選）／永田泰子（以下卒業生 初入選）／鬼塚堅太／高橋一徳／中井香奈子／須田建文／千種伸直／桑原武史／高橋誠／野田歩／山本順子／阿良山早苗

17



17

第4回「川越を描くビエンナーレ展」で入賞特別佳作受賞。美術館での展示も

第4回「川越を描くビエンナーレ展」で、美術科日本画コース3年加藤有希子さんの作品「かまえ」（F30号）が入賞特別佳作を受賞。入選作品展示を川越市立美術館で6月26日～7月5日に開催しました。

18

第8回自由美術新人賞受賞！記念すべき彫刻作品を受賞展に入品

大学院彫刻領域2年の奥村拓郎さんが、自由美術協会主催の第8回自由美術新人賞を受賞。5月17日～23日に東京銀座のギャラリー青羅にて新人展が開催されました。

19



19

第27回朝日現代クラフト展に入選 著名作家の作品と一緒に展示の栄誉！

大学院工芸領域2年の小野寺奈南さんが第27回朝日現代クラフト展に入選。応募総数934点の中から選ばれた入賞・入選作157点と、日本を代表する著名作家で歴代審査員25名の作品の展示を、阪急うめだ7階イベントホール「ミュージズ」で5月20日～26日、横浜都筑版急4階催事場で5月28日～31日に開催しました。主催：朝日新聞社 協賛：阪急百貨店

20



20

学長、教員、学生が展覧会を開催 そうそつたる作家たちの競演は圧巻

松本哲夫学長、日本画コースの香場三雄准教授や谷善徳講師のほか卒業生が多数在籍する「松田会」が6月15日～20日に東京の西區画廊で展覧会を開催しました。出品者：松本哲夫（写真）／宮北千織／阿良山早苗／大山龍顕／鬼塚堅太／柏谷明美／桑原武史／岸野香／高橋誠／谷善徳／中井香奈子／中村晃子／香場三雄／前田力

21



21

4万人以上を来場者にアビールアートフェア2009東京にOB 出品

美術科洋画コース卒業生の高松和樹（写真）さん、齋藤ナオさんが、4月3日～5日に開催された日本最大のアートフェア「アートフェア2009東京」に出品。過去の開催では来場者が4日間で43,000人を記録。4回目となるアートフェア東京2009はこれまでの最大規模となる140以上のギャラリーが出品しました。主催：運営：アートフェア東京実行委員会・株式会社アートフェア東京 WEB: http://www.artfairtokyo.com/

22

都庁キャンパスに掛け！「トーキョーワンダーウォール公募2009」に入選

都庁の壁面を、これからの美術を担う新進気鋭作家の作品発表の場にと2000年に誕生した「トーキョーワンダーウォール」。毎年行われる全国公募で、美術科洋画コース4年生の市川弘充さん、大園亮介さんが入選しました。作品は6月6日～28日に、東京都現代美術館で開催する公募展に出品されました。WEB: http://www.mot-art-museum.jp/

23



23

子猫モチーフのアクセサリーを販売期間限定ジュエリーショップオープン

大学院コンテンツプロデュース領域2年生の内田宝花さんが、山形市内で4月12日～6月28日の期間限定でジュエリーショップ「Blau Cats」をオープン。子猫をモチーフとしたオリジナル1点モノのアクセサリーを販売しました。WEB: http://blaucats.blog.shinobi.jp/

24



24

前田哲准教授の監督作品が海外上映「JIFF AUDIENCE AWARD」に輝く！

前田哲准映像科准教授が監督し、初の教師役に妻夫木聡が挑んだ映画「ブタがいた教室」が、4月30日～5月8日に韓国で開催された第10回全州国際映画祭（JIFF）で、観客の最高人気賞となる「JIFF AUDIENCE AWARD」を受賞。集客数でも上位20作品にランキングしました。韓国4大映画祭の中の1つ「全州国際映画祭」。「自由、独立、疎通」をテーマとした9日間の開催期間中、世界42ヶ国200本の映画が上映されました。

25



25

ジャンルを超えたOB たちの作品展新潟出身卒業生によるアート&デザイン

5月19日～24日に新潟美術学園ギャラリーで、新潟出身で卒業生の9名がグループ展を開催。山形の地で育んだアートとデザインの感性を、油彩画、版画、彫刻、グラフィック、プロダクトなどの13点の作品として故郷新潟で発表しました。出品者：澁谷大軌／阿部亮平／佐藤妙子／石垣英美／館四季葉／寺尾麻美／高橋香穂里／森山文音／築井明日香

26



26

修復者の視点で書かれた興味深い一冊「壊れても仏像—文化財修復のはなし」

国宝、重要文化財の仏像の修復に携わる文化財・保存修復学卒業生の飯塚太子宗（いづみ・としたか）さんが本を出版しました。修復者ならではの視点で、一般には見ることができない仏像修復過程の実際の写真やイラストなどを使用し、奥行きのある仏像の面白さに迫りました。

27



27

関心集めた「大学院仙台スクールリエゾンネットワーク」発足記念講演会

大学院仙台スクールでは「産学官連携による諸課題への対応」を目的とした「大学院仙台スクールリエゾンネットワーク」発足を記念し、5月23日に講演会を開催しました。事業・商品開発や各種デザイン・映像コンテンツ開発、地域づくり計画等に関わる企業・自治体など35団体の参加があり、今後は、セミナーや研修会、会員交流を図り、東北の自然資源や本学の知的資源を活用した産学官連携活動を行っていきます。

28

果敢な挑戦が結果につながった！春の公募展に在学学生・OB 多数入選

日本画コースの在学学生・卒業生が多数の公募展、作品展に入選しました。トーキョーワンダーサイト主催の、若手美術作家による小作品公募展「東京ワンダーシード2009」には以下の方が入選。過去最高の1,053点の応募の中から選ばれた108点が、3月7日～29日にトーキョーワンダーサイト渋谷で展示されました。入選：内海真佳子（3年）／亀岡里美（卒業生 日本画コース副手） 上野の森美術館大賞展には以下の方が入選しました。入選：土井沙織（院2年）／津田文香（4年）／浜島桂太（卒業生） 第72回河北美術展には以下の方が入選しました。入選：針生卓治（院2年）／渡邊静香（3年）／宇津井彰子（卒業生）

29

12名の入選者が力量を披露、第77回版画展に出品

4月6日～21日に東京都美術館で「第77回版画展」が開催されました。本学からは洋画コースの在学学生・卒業生あわせて12名が入選し、出品しました。出品者：本宮製香／大山貴也／榊原慶／石垣英美／須藤光和／福田浩子／李英圭／川辺秀太／野瀬昌樹／今野智代／杉原昭子／西村沙由里（写真） 主催：社団法人日本版画協会

30

卒業生の作品が分水嶺モニュメントに最上町の人々に愛されますように

最上ロータリークラブ創立40周年記念事業として、美術科彫刻コース卒業生の飯塚太子宗さんの作品「ほしい」をロータリークラブへ寄贈。最上町地区の分水嶺モニュメントとして設置され、6月14日に除幕式が執り行われました。

OPEN GALLERY

WELCOME TO TUAD

2009年のおすすめ展覧会

いにしへの霊湯と、芸術の灯にひたる夜。

約4千人の村民が暮らす、美しい村・山形県最上郡大蔵村のさらに山奥に、開湯1200余年を数える肘折温泉がある。肘折は農閑期に骨休みをする“湯治場”として東北では古くから知られる。また、霊峰・月山の登山口でもあることから、江戸時代は山岳信仰の霊湯として栄え、近代に入ってからには鉱山街としても隆盛した。農家の働き手や鉱夫たち、信心深い修験者たちを、何百年も癒し続けてきた肘折の湯は、いにしへの火山爆発の賜物だ。一見、眠っているように静かな温泉街は、実は外輪山に囲まれたカルデラ盆地の底にあり、湯はさして掘らなくても、大地から噴出するように湧き出ている。豊富な源泉、鉱物をめぐり興亡、月山への信仰……すり鉢状の肘折カルデラに刻まれた爆発の痕跡と、ここに棲みついてきた人々の記憶を辿るようにして、温泉につかり、湯守たちと語り、集落周辺を歩き回っていると、外輪山に抱かれるようにして佇むこの場所が、自然界と調和した、ひとつの完結した小宇宙に思えてくる。そうした肘折の持つイメージの喚起力を頼りに、2007年から温泉街の人々と東北芸術工科大学が東北ルネサンスプロジェクトの1つとして共同で行っているアートプロジェクト『ひじおりの灯』は、地域とのつながりを着実に深めながら少しずつ規模を拡大し、今年で開催3回目を迎えた。

肘折の夏の風物詩として定着した、夜の温泉街を彩る八角の灯籠『ひじおりの灯』。その2009年の新作は、本学大学院で洋画、版画、テキスタイル、グラフィックデザインを学ぶ43名の若者たちが、肘折温泉での逗留制作を経て描きあげたものだ。

山菜や旅館の景観、浴衣姿の湯治客や朝市の様子、同地の伝説や妖怪奇譚の類、月山信仰に基づく様々な儀礼、銅山川を流れる雪解けの水音など、有形無形の肘折の小宇宙が、工夫を凝らした36基の灯籠に仕上がった。

ぜひ点灯期間中に肘折を訪れて、温泉街の濃い闇に映える、若者たちの灯籠に目を凝らしてほしい。そこには、直径3kmの小さなカルデラ盆地に集約された、驚くほど多様な土地や家族や命をめぐり物語が、壮麗な絵巻物のように渦巻いている。

また、8月19日(水)には、肘折を舞台としたドキュメンタリー映画『湯の里ひじおり—学校のある最後の1年』の特別上映会も温泉街で開催される。この映画が初作品となった監督の渡辺智史さんも、東北芸術工科大学の卒業生だ。せっかくの行き止まりの街、できたら実際に肘折に泊まって、日々の忙しい生活を忘れて、湯と灯籠の光に浸ってほしい。

『ひじおりの灯』コーディネーター
宮本武典(本学学芸員)



照明デザイン:竹内昌義(みかんぐみ) / 灯籠絵:若月公平(2008年)



『湯の里ひじおり—学校のある最後の1年』
©アムール / <http://hijorieiga.blog.shinobi.jp>



肘折温泉街で取材を行う学生



共同浴場の壁画『肘折煤染』



旧肘折郵便局舎の前で作品解説をする学生たち

『ひじおりの灯 2009』

会期:7月13日(月)～8月31日(月)
点灯:18:00～20:00(会期中無休/入場無料)
会場:肘折温泉街(山形県最上郡大蔵村肘折温泉)
主催:肘折地区+東北芸術工科大学
問合せ:0233-76-2321(柿崎)

〈『湯の里ひじおり』東京上映会〉
会期:7月23日(木)～25日(土) 19:00～(76分)
会場:江東区文化センター(東西線東陽町駅下車5分)
料金:1,500円/前売り券1,000円
問合せ:03-3555-3987(バンドラ)



●出品者

吉田庸一 Yoshida Yoichi
山形市在住。3年前に引き続きこの春からの公開講座を受講中。芸工大の近くに自宅があり、この界隈は子ども時代の遊び場。以前から興味があった陶芸講座に通い始め、毎日使える器作りを楽しんでいる。

●寸評

佐々木理一 Sasaki Riichi
美術科工芸コース陶芸主任講師。1989年 東京芸術大学大学院美術研究科陶芸専攻修了。修了制作サロン・ド・プランタン賞受賞、日展入選など、受賞歴多数。公開講座でも講師を務めている。



毎日の食卓で愛用されている中鉢

SHORT REVIEW

あなたの作品、寸評室

3年前に芸工大の公開講座で陶芸を受講した吉田さん。その時の作品3点を持参し、工芸コースの佐々木先生の評価を仰ぐことに。現在は少し難易度の高い磁器制作に挑戦中で完成の時を楽しみにしている。

佐々木 3年前の公開講座「ろくろ入門編」で作られた中鉢ですね。なかなかいい感じに仕上がっていますが、それまでも陶芸は経験されていたんですか。

吉田 30年ほど前に盆栽の鉢がほしくて手びねりで作ったことはありましたが、ロクろをひくのはまったく初めてで、実際に使える器が作れるとは思ってもみませんでした。自分で作った器に自分で作った料理を盛りつける、こんな贅沢はないですね。

佐々木 吉田さんは料理も作られるんですか。この茶色の中鉢は、縁の部分が少し立ち上がっていてちょっとつゆだくの煮物にも使えていいですよ。これはまさに料理を作る人の感覚ですね。

吉田 でも、よく見るとこの縁の部分が結構ゆがんでいるんですよ。それが素

人らしくていいのかもしれませんが……。佐々木 まあ100%はありませんからね。多少ゆがんでしまったり、釉薬が偏ってしまったり。この白い中鉢は釉薬を2重掛けした分、釉薬が模様のように浮いているんですね。なかなか狙ってできるものではないです。

吉田 この小さい器は、家内の一番のお気に入りなんです。とても下手なんですけども偶然の味わいがあるなと思っています。

佐々木 この色がついている部分は、釉掛けして振ったんでしょうね。動きがあっていいですよ。吉田さんのように料理好きの方もいれば、お酒の好きな人や生け花や茶道をやっている人、陶芸そのものを楽しんで、さらにその先にそれらを使う楽しさがあるというのがいいですよ。

吉田 講座仲間にはすごいキャリアの人もいますが、私はこれくらいが限界ですね。

佐々木 いや、ここまでできるということは、もっといろいろ楽しめるとおもいますよ。

吉田 先生の今の一言でまた欲が出てきました。これからも宜しくお願いいたします。

OPEN GALLERY

EVENT SCHEDULE **WEB**

在学学生、卒業生の皆さんへ

東北芸術工科大学の広報誌「g*g」では、イベントなどの告知情報をお待ちしております。

7/13-8/31

この夏も、山里の温泉街に文化の灯

在学学生・卒業生が折折温泉の風情を描いた36個の灯籠絵を、作家たちとそぞろ眺める「肘折絵語り」、
「湯の里ひじおり」の上映会、「移動茶屋」、「四ヶ
村棚田はたる火コンサート」を開催します。
※詳しくは裏面をご覧ください。

7/18-10/24

名だたる小説家たちの話題に釘付け

東北に出版文化をはぐくむことを目的にコーディネーターに池上冬樹(文芸評論家)をお招きし、「小説家・ライター講座」を開催。小説家を目指す方はもちろん、教養として学ばれたい方をも対象に、毎回プロの小説家が講義をします。

WEB: <http://gs.tuad.ac.jp/renaissance/index.php>

「平成21年度 東北芸術工科大学「小説家・ライター講座」

時間: 17:00-19:00

受講料: 一般2,000円/学生1,500円/高校生以下無料

会場: 仙台文学館(定員90名)/8月22日(土)のみ青年文化センター(定員63名)

問合せ: 東北文化研究センター

〈文章をきたえるテクニク分析〉

講師: 中条省平(文芸評論家)

日時: 7月18日(土) 17:00-19:00

〈小説における描写をめぐって〉

講師: 小池昌代(詩人・作家)

日時: 8月22日(土) 17:00-19:00

〈ひとつの小説が生まれるまで〉

講師: 片岡義男(作家)

日時: 9月19日(土) 17:00-19:00

〈人生の後半で書き始めた小説〉

講師: 北重人(大藪春彦賞作家)

日時: 10月24日(土) 17:00-19:00

7/23-8/7

版画家と建築家が織りなす空間の魅力

木版画を中心に発表を続ける版画家の中村桂子と、日本で活躍するフランス人建築家エマニュエル・ムホーによる展覧会を開催します。

『TUAD mixing! 中村桂子×エマニュエル・ムホー展』

日時: 7月23日(木)~8月7日(金) 10:00-18:00

(土曜日17:00まで/7月26日(日)休館) 入場無料

会場: 7階ギャラリー

企画: 美術館大学センター



7/28-8/9

真夏の丘の夢、瑞々しい美術の競演

山形県内の美術教育関係者(現職教員、講師)による展覧会を開催します。本学教員も出品します。

『悠創展2009』

会期: 7月28日(火)~8月9日(日) 10:00-17:00

(月曜休館/最終日15:00まで) 入場無料

後援: 山形県教育委員会

〈記念シンポジウム「美術教育への提言」〉

日時: 8月8日(土) 13:00-16:00(12:30開場)

会場: こども芸術大学

〈出品者によるギャラリートーク〉

日時: 8月9日(日) 13:00-14:30

8/1

それぞれのレベルで楽しむ、極める

和太鼓演奏を体験する初心者向けのワークショップと、保育園、幼稚園、小・中・高校及び地域などで指導されている方を対象に行うワークショップを開催します。和太鼓「太恵」による実演、感性的な体験、技量向上などを目指します。

講師: 川口幾太郎(教授)、吉田鮎子(太恵)、郷津香乃(太恵)

申込: 7月23日(木)まで/電話: 023-627-2091

会場: 本学体育館

『はじめての和太鼓【全1回】』

日程: 8月1日(土) 10:30-12:00

対象: 初心者の方 20名

受講料: 一般2,000円/高校生以下1,000円(保険料別)

『感性の和太鼓(指導者向け)【全1回】』

日程: 8月1日(土) 14:00-17:00

対象: 初心者から経験者までの一般の方 20名

受講料: 5,000円(保険料別)

8/1, 2

一日芸工大生になってみませんか。

各学科・コースによる模擬授業やワークショップ、在学生の授業課題や作品展示、アトリエや工房、演習室の公開、学生や先生との交流など、さまざまな企画を用意して参加をお待ちしています。

『高校生・受験生向けオープンキャンパス2009』

日時: 8月1日(土)・2日(日) 10:30-16:00

予約不要/入退場自由

※山形・仙台・酒田・鶴岡・郡山・福島・盛岡・秋田・水戸・日立・新潟の各駅~大学間に無料バスを運行予定です。

8/1, 2, 8

短期間で完成まで、楽焼に気楽に挑戦

楽家初代長次郎が創始したと云われる「楽焼」を現代風にアレンジし、3日間で制作から焼成まで行います。初心者も経験者も楽しめる講座です。

『短期陶芸講座(楽焼)』(全3回)

講師: 佐々木理一(講師)/鈴木誠(副手)

日程: 8月1日(土)・2日(日)・8日(土) 14:00-17:00

会場: ろくろ室(新実習棟C2階)

対象: 初心者から経験者までの一般の方 16名

受講料: 一般9,000円/中・高生5,000円/小学生3,000円

申込: 7月23日(木)まで/電話: 023-627-2091

8/5-7

威勢よくカッコよく、らしく舞え!

山形の夏の風物詩、花笠まつりに芸工大チームも参加します。学生らしく若々しくダイナミックな踊り「桜風吹」をお見逃しなく!

『花笠まつりに参加』

山形花笠まつり日程: 8月5日(水)~7日(金)

芸工大チーム参加日時: 8月7日(金) 19:40-



8/22-11/28

自作の器で味わう秋の味覚は格別です

「秋の食卓」をイメージして土鍋、土瓶、大鉢、大皿など、バリエーション豊かな食器を作ります。贅沢な秋の食卓を演出してみませんか。

『ろくろ中級編』(全15回)

講師: 後藤智絵(陶芸家、卒業生)/鈴木誠(副手)

特別講師: 佐々木理一(講師)/椎名勇(非常勤講師)

日時: 8月22日~11月28日の土曜日 14:00-17:00

会場: ろくろ室(新実習棟C2階)

対象: 初心者から経験者までの一般の方 15名

受講料: 48,000円(粘土代は別途徴収)

申込: 7月30日(木)まで/電話: 023-627-2091

9/19, 20

楽しさ見応え、さらにスケールアップ

今年はイベントや模擬店の数も例年以上を予定し、一層の盛り上がり期待。山形駅より無料シャトルバスを運行しますので、遠方からもお気軽にお越しください。イベント内容、シャトルバス時刻表などの詳細は芸工祭 WEB サイトをご覧ください。

WEB: <http://geikousai.tuad.ac.jp/>

『大学祭「芸工祭」』

会期: 9月19日(土)・20日(日) 10:00-20:00



9/21-26

信仰と文化、風景をたずねて六十里

かつて「出羽三山参り」のルートとして栄えた六十里越街道は、松尾芭蕉、斎藤茂吉、森敦、岡本太郎などの文化人と関連した風景が多数あります。その景色を活用し、出羽三山信仰の伝統と旅文化に触れながら、六十里越街道を歩きます。

『一光の旅路、六十里越街道ものがたりー「六十里越街道を歩く会」』

日時: 9月21日(月)/A区間(鶴岡~大網)

9月22日(火)/B区間(大網~湯殿山)

9月23日(水)/C区間(湯殿山~志津)

9月24日(木)/D区間(志津~岩根沢)

9月25日(金)/E区間(岩根沢~寒河江)

9月26日(土)/F区間(寒河江~山形)

集合時間: 各区分ともに8:00

※行程など詳しくは、下記センターまでお問い合わせください。

問合せ: 文化財保存修復研究センター

E-mail: iccp@aga.tuad.ac.jp Tel: 023-627-2204

9/26-1/16

究極のオシャレ、手づくりジュエリー

銀のリング、ペンダント(花型)、ブローチなどを制作します。基本的な彫金の技法を学びながら、オリジナルのジュエリーを制作します。

『彫金ジュエリー講座』(全15回)

講師: 堤大悟(金工家、卒業生)

特別講師: 金子透(准教授)

会期: 9月26日~2010年1月16日の土曜日

17:00-20:00

会場: 新実習棟 A2F 絞り室

対象: 初心者の方 10名

受講料: 45,000円(材料費別)

申込: 9月10日(木)まで/電話: 023-627-2091

9/27, 10/3

芸工大ともしっかりお近づきになりましょう。

在学生保護者と学科教員との情報交換や相談、交流を深める保護者会懇談会を、東京と仙台の2会場で開催します。

『保護者会懇談会開催』

〈東京会場〉

日時: 9月27日(日) 13:00-17:00

会場: 東京サテライトキャンパス(中央区日本橋堀留町)

〈仙台会場〉

日時: 10月3日(土) 13:00-17:30

会場: 仙台アエル(仙台市青葉区中央)

9/28-10/14

そこにあるのは感動が驚愕か賞賛か

本学教員も所属する META II の巡回展を開催します。

『HEAVY META II 挑戦しつづけるニッポン男児(仮)』

会期: 9月28日(月)~10月14日(水) 10:00-18:00

(土曜日17:00まで/日曜祝日休館) 入場無料

会場: 7階ギャラリー

参加作家: 長沢明日本画コース教授/岡村桂三郎/竹内啓/樋口広一郎/峰岡正裕/梶岡俊幸/斉藤典彦/佐藤裕一郎/山本直彰/吉田有紀 ほか

企画: 美術館大学センター

10/24

悠久の国、中国の美術に触れるチャンス

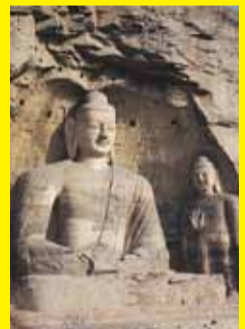
雲岡石窟造像の歴史と、「曇曜五窟」を中心とする彫刻作品の代表作をいくつか紹介し、中国仏教美術の初期の様相を探ります。

『公開講座「雲岡石窟の美術」』

講師: 下野玲子

日時: 10月24日(土) 13:30-15:00(予定)

会場: 東北芸術工科大学講義室



10/25

高校生目線のアイデアに感動、脱帽

デザセンは高校生を対象とした、社会の様々な問題を解決するためのアイデアを競う大会です。決勝大会では、一次審査で選ばれた10チームが映像や模型を使って提案を発表します。高校生たちのまっすぐな思いに、誰もが感動させられるはずです。審査員には脳科学者の茂木健一郎氏、デザイナーの原研哉氏が審査委員に加わりました。是非ご来場ください!

『デザセン2009 決勝大会』

日時: 10月25日(日) 12:30-17:00 入場無料

会場: 本館201講義室

WEB: <http://www.tuad.ac.jp/hidechamp/>